

いちょなみき

No. 80

特集
Special Section

第3期中期目標・ 中期計画に向けた戦略

「社会のイノベーションを先導する
真のグローバルな教育・研究拠点として」

- 特集2 人文社会科学系学部における教育改革
- 岡山大学から世界へ、グローバルに活躍する卒業生
藤森 文雄 さん アイシン精機株式会社
取締役副会長
- 研究室訪問 森本 美智子 大学院保健学研究科 教授
- きらり岡大生 大内田 裕美 マッチングプログラムコース1年
- 学生の活躍
- News & Topics 大学の動き／研究・臨床成果
- 岡山大学Alumni(全学同窓会)とは／編集後記



鹿田地区「Junko Fukutake Hall」



特集1 Special Section

第3期中期目標 中期計画に向けた戦略

社会のイノベーションを先導する 真のグローバルな教育・研究拠点として



◀ 学長に聞く ▶

文部科学省の国立大学法人評価委員会は2015年11月、教育や研究、運営の指針となる第2期中期目標の2014年度の評価結果を公表。岡山大学は学長がリーダーシップを発揮して改革に取り組んだとして「特筆すべき進捗状況にある」と最高評価を受けた。2016年度から始まる第3期に向け、森田潔学長にこれまでの成果と今後の方針について聞いた。

第1期（2004～2009年度）、第2期（2010～2015年度）を振り返り、どのような成果を感じているか。

第1期は教職員の活動評価システムを整備するなど大学業務の効率化を図り、第2期では国際的な教育・研究拠点として大学と都市・地域が連携した

●第3期中期目標期間（2016～2021年度）
2004年に法人化した国立大学は、文部科学大臣が定める6年間の中期目標に基づき、中期計画・年度計画を策定している。2016年度から始まる第3期中期目標期間では、各大学が強み・特色を生かし、自ら改善・発展する仕組みを構築することにより、持続的な競争力を持ち、高い付加価値を生み出すことが求められている。中期目標・中期計画には、6年間でどんなことを目指すのか、各大学の戦略が明記されている。

美しい学都を創造する「学都構想」を掲げて大学改革を進めてきた。急激な少子高齢化や人口減少を見据え、18歳人口の減少が深刻になる「2018年問題」が迫る中で大学の存在価値が大きく問われており、他大学と区別化を図るかが重要だった。文部科学省の「研究大学強化促進事業」、厚生労働省の「臨床研究中核病院整備事業（現：臨床研究品質確保体制整備事業）」に選ばれたことで、リサーチ・ユニバーシティとしての高い研究力と中四国地区の基幹病院という強みが認められたと捉えている。

ただ、グローバル化においては非常に遅れていた。2014年度に大学改革担当理事を新たに置き、大学改革推進室を設けて相当な努力を重ねた結果、昨年度、文部科学省の「スーパードーバル大学創成支援」に選ばれたのだが、これも区別化の中で大きな力になる。岡山大学として良い結果を残せ、第3期に向けて飛躍する土台ができたと思っている。

また、キャンパス整備においては鹿田地区に「Junko Fukutake Hall」（通称：Jホール）、「津島地区」に「Junko Fukutake Terrace」（通称：Jテラス）や交流広場ができ、それなりの成果は挙げられたが、まだ、十分とは思ってはいない。来年度中に図書館までの南北道路整備は完成させたい。

2016年度から始まる第3期において、岡山大学が目指す方向性とは。

文部科学省は日本の大学の国際競争力を強化するため、2016年度から国立大学を特色によって①地域に貢献する大学②専門分野にすぐれた大学③世界に伍する大学④の3つの枠組みに分ける新たな方針を打ち出した。岡山大学は旧帝大などとともに③を選択したわけだが、積極的に組織改革や機能強化に取り組む大学に運営費交付金が手厚く配分されることになるわけで、さらに厳しい競争が待っている。グローバル化したうえで教育でも研究でもきちんと成果を挙げて岡山大学の存在価値を社会に示したい。

目指すは、 世界に伍する大学。



▲津島地区のJテラス



▲リニューアルされた中央図書館

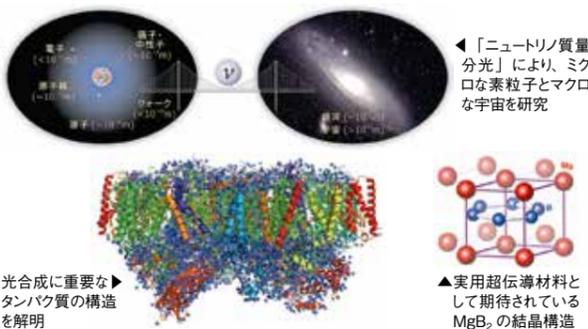
- 岡山大学の強みである「物理学」と「基礎生命科学」の研究基盤を強化
- 量子宇宙研究、光合成・構造生物学、超伝導材料・デバイス分野を融合した研究所
- 世界トップレベルの研究成果を持続的に発信する国際共同研究拠点

異分野
基礎科学
研究所

世界唯一 量子宇宙研究コア
 原子物理学を基礎とするニュートリノ物理学の推進と基礎数理科学の研究（4分野）

世界TOP 光合成・構造生物学研究コア
 光合成の機構解明と人工光合成の実現（4分野）

世界TOPレベル 超伝導・機能材料研究コア
 高温超伝導体の実現と超伝導物理学推進、軽元素による超伝導体開発とエレクトロニクスの展開、関連材料の開発、理化学によるエネルギー貯蔵物質の機構解明（5分野）



新たなイノベーションで、研究成果を社会に還元。



「研究面ではどのように改革を進めるのか。」

世界に伍する大学として戦略的に研究力を向上させるためには、強化すべき研究領域の絞り込みが必要。研究特区「グローバル最先端異分野融合研究機構（G研究機構）」などの特色ある新しい研究プロジェクトや、岡山大学の強みである医療分野の研究をさらに推進し、それらをフロントとして成果を全

「業務運営における目標とは。」

大学のグローバル化を図るには学生だけではなく、教職員、大学環境のグローバル化が必須。そのための努力をしてほしいと思っている。ガバナンス改革ではミドルアップ・ミドルダウン（部局長主導型運営）を強化しつつも学長のリーダーシップは重要であり、学長や部局長の果たす役割を明確にしながら各部局の成長をさらに促進したい。また、将来的に岡山大学だけでは存続できない時代がやって来るわけで、その準備も必要。国立六大学（千葉、新潟、金沢、

アジア圏を重点に国際連携。

岡山大学は総合大学であり、幅広い専門性と国際性を持ったグローバル実践人の育成を目指している。グローバル化という欧米のイメージを抱く学生が多いかもしれないが、東アジア・東南アジアとの交流を増やしたいと思っている。同じアジア圏ではあるがアジアが抱える問題など学ぶことはたくさんあり、アジアを知ることが世界を知ることにつながる。第3期は大きな分岐点であり、大学として与えられた環境の中で最大限の努力をし、常に進化し続けなければならないが、世界のリーダーング大学に伍して創造的な知性を牽引する大学となるための取り組みを推進し、学生が岡山大学を卒業したことを誇りに思えるような大学にしたい。

「大きな変革期を迎える中で、岡山大学で学ぶ学生に寄せる思いは。」

岡山、長崎、熊本）連携コンソーシアムにおいては文科省委託事業として昨年度から取り組んでいる「ミャンマー留学コーディネーター配置事業」の共同事務所を設けるなどグローバル化の面で活動を展開しているが、教育、研究、国際連携などの事業も実施し、大学間連携による協働を実質化していきたい。

学生が見て、学び、そして実践する。

地域、国際社会と連携した実践的教育については、岡山大学地域総合研究センター（AGORA）が良きモデルになっており、実践型社会連携教育プログラムはもちろん、グローバル実践型教育、世界の異文化を深く体験する異分野連携教育を全学的に展開し、学びの強化を図っていく。グローバル化が進む中で本場に必要なのは即戦力よりも実践力であると考えられる。座学だけでは社会に対する貢献度は低く、学生は現場で社会が何を求めているかを自ら体感することが極めて重要だ。先日、岡山大学インド感染症共同研究センターを訪れた際、座学だけでは対応できない現実がそこにあることを目の当たりにし、学生が見て、学び、そして実践するチャンスをつくらなければならないと痛感した。

中核となるのは、「グローバル・ディスカバリー・プログラム」。

「教育面ではどのような戦略を描いているのか。」

改革の大きな柱になるのは2016年度から導入する「60分授業・4学期制」だ。60分授業を全学部で一斉に実施するのは国立の総合大学としては全国初の取り組みで、これまでの個々の授業と大学全体・学部全体の教育内容を考え直す機会が生まれ、アクティブ・ラーニング等を取り入れた新たな授業方法の工夫、入学から卒業までの各学部による体系的な人材育成戦略等が再構築されていく。また、4学期制になることで授業の組み合わせに自由度が高まり、長期的なインターンシップや海外留学・受け入れなどもしやすくなるだろう。

そして、既存のマッチングプログラムコースのグローバル版となる「グローバル・ディスカバリー・プログラム」（2017年度開設予定）が第3期中核になると考えている。外国人留学生の受け入れを増やすために国際系の新学部を開設する大学も多いが、一部の学部だけではなく、各学部がグローバル化しなければ全体がグローバル化は図れない。同プログラムでは日本人学

生と外国人留学生が一緒に学べる環境をつくり、既存の学問分野の枠にとらわれず、プログラム独自の科目や各学部が開講する科目の中から、将来の目標に適した科目を履修できるスタイルをとることで各学部への波及効果が期待でき、学部ごとにグローバル化のレベ

ルを上げられると考える。これを軸に、学生が3基幹力（教養力、語学力、専門力）を修得し、3側面（異分野・異文化・バイスリー）教育を全学体制で推進し、世界のトップステージで活躍できる実践人を育成したい。

岡山大学グローバル・ディスカバリー・プログラム

ISCOVERY
 Program for Global Learners
 at OKAYAMA University

募集人員	国内選考 30人 / 海外選考 30人
開始時期	2017年10月スタート（予定）
取得学位	学士（学術）
入試方法	AO入試

- 世界各地から集まった留学生・帰国生と一緒に学ぶ国際プログラム
- 学部や学科の枠にとらわれず、自分の興味や将来の目標に適した履修プログラムを作成
- インターンシップやフィールドワークなど実践的な学びを重視

プログラムの特徴

「自分の学び」を可能にするカリキュラム 履修アドバイザーと相談しながら、学生自身の学ぶ意欲や関心、将来の目標とマッチした科目を設定できる。グループディスカッションやプレゼンテーション、ピア・ラーニング（学び合い）を中心とする授業で、多文化への感性と課題発見力を高める。	徹底した言語教育 プログラムの共通言語は、英語。入学直後からレベルに合ったアカデミック英語プログラムで英語力を伸ばすことができる。	実践知を身につける 地域、NPO、地元企業などと連携したフィールドワークやインターンシップを取り入れ、それまでの学びを生かした課題発見・解決の道筋を探索。海外留学も推奨。
--	---	---

1年次	2年次	3年次	4年次	就職大学院進学など
言語教育 / 教養教育 ディスカバリー共通科目	ディスカバリー専修トラック（主に英語による科目を履修）	実践科目 ・海外留学・フィールドワーク・インターンシップ	学部・学科横断型マッチング・トラック（主に学部が提供する科目を履修）	卒業研究

人文社会科学系学部 における教育改革

特集2
Special Section

岡山大学では社会からの要請を把握するため、在学生、卒業生やその就職先、高校進路指導者を対象にアンケート調査を実施。文・法・経済の3学部体制を維持したうえでステークホルダーとの関係を踏まえ、2016年度から新たな教育改革を実施することを決めた。3学部それぞれの取り組みを紹介する。



学生が所属するコースの科目を中心に履修する「5専修コース制」を廃止し、新しい教育システムとして8つの教育分野を設けます。ある領域(西洋史領域、社会学領域など)の知識を深めるとともに、一人ひとりが学部全体から各自の学びに適合する授業を選び、専門知

と学際知の両立を目指します。

ことばの力、一人ひとりがデザインできる、新しい学びのかたちへ

文学部長 金 関 猛

今回の教育改革の目標は一人ひとりの学生が学びの楽しさを実感できること。社会に出て求められる行動力の基盤となるのは、自分で判断できる思考力、他人を説得できる表現力でしょう。学生には自分で考え、それを自分のことばで表現することが求められます。そうした中で学びの楽しさが実感できればその意欲はさらに高まります。卒業論文を軸とした能動的学習を展開することによって、実社会で活躍できる人材育成を目指します。

文学部



法学部

リーガルマインドを
はぐくみ、職場で存在感



法学部長 小 山 正 善

大学教育における近年の傾向として、実践型の教育、社会で使える教育、お金になる教育が挙げられます。これはグローバル化した市場での競争を勝ち抜くという視点のもとで大学をとらえ直すからかと思われます。ただ、卒業生の過半は公務に就きますが、公務は必ずしも利潤追求だけで説明のつくものではありません。法学部の教育において何を学び取るのか、この問いかけに答えようとするのが法学・政治学教育の第一歩です。

新たに3コース制を導入し、卒業後の進路を踏まえた新しいカリキュラムを実施します。国・自治体職員希望者向けの「公共法政コース」、民間の金融機関希望者向けの「企業法務コース」、法科大学院進学希望者向けの「法律専門職コース」の3コースで、各コースには



「コア科目Ⅰ・Ⅱ」という進路選択にふさわしい科目群を配置。初年次における専門導入的・基礎的教育に対応した「法政基礎科目群」、法学部生として共通に備えておくべき専門的知識と実践的能力の習得に資する「法政共通科目群」を設けるなど工夫を施しています。さらに社会的要請の強いグローバル化への対応能力を涵養するための科目群、すなわち「グローバル法政科目群」も設けており、英語による授業も複数科目開講します。

また、講義科目以外でも現在の「演習Ⅰ」(2年次)、「演習Ⅱ」(3年次)に加えて4年次向け「演習Ⅲ」のほか、「リーガライティング演習Ⅰ」(a)、「リーガライティング演習Ⅰ」(b)、「リーガライティング演習Ⅰ」(Ⅷ)を開設し、少人数・双方向教育にも力を入れることにしています。

経済学部

組織と自己を
マネジメントする



経済学部長 松 本 俊 郎

社会人基礎力やグローバル化への対応力を身につけてほしいという社会的な要請と、卒業生や就職先を対象にしたアンケートの結果を踏まえ、経済学部の専門分野に関する体系的な知識だけでなく、いわゆる文系ホワイトカラーに求められる仕事を育成するための教育を模索してきました。新たなカリキュラムと、学修内容・到達度を自己管理し優れた部分をアピールできるよう工夫された成績評価制度を目玉に、大改革を図ります。

従来の分野別履修コース制から大きく転換し、昼間コースでは専門の講義科目を内容・特色別に数科目ずつのユニットに分類、近いユニット同士をモジュールと呼ばれる系統に編成しました。これにより関心のある分野が重点的に深まると同時に、科目・ユニット・モジュー



ルの自由な組み合わせで知識や能力の幅が広がります。また、低年次に基礎演習や選定図書レポートを新設し、高年次では卒業研究を2年間に延長するなど、学生のアクティブ・ラーニングを強めています。

最大の「売り」は学修到達度評価システムの導入です。科目・ユニット・モジュール別の成績を記した学修到達度シートを指導教員が学生に定期的に配付。基準に達した学生にはその時点で認定証を渡し、優秀な学生には卒業時に学士力総合認定1級を授与します。目標設定や得意分野の発見、進路開拓などに大いに役立つと期待しています。夜間主コースでは講義科目を精選し、演習科目の割合を飛躍的に高めた総合的・実践的カリキュラムと学修到達度評価システムで学生の多彩な経験を生かす教育を実現します。



アイシン精機株式会社 取締役副会長 ◆ 岡山大学工学部機械工学科卒

藤森 文雄

F U J I M O R I F u m i o

世界中の自動車メーカーへのサプライヤーとして、
目指すは「かけがえのないグローバルパートナー」。
開発した製品は自動車に載って、今日も世界中を走る。

- ▶ふじもり ふみお (67歳)
- 1949年 三重県出身
- 1971年 岡山大学工学部機械工学科卒
- アイシン精機株式会社入社
- 技術企画室 副室長
- 1994年 第一開発部 部長 取締役
- 1997年 取締役副社長
- 2005年 取締役社長
- 2009年 取締役社長
- 2012年 藍綬褒章を受章
- 2015年 取締役副会長

インド現地法人を訪問時に
現地社員と▼



↑上げるなど全社的な対応を進めました。
当時、製造拠点は新興国にも
上げるとともに、現地社員の育成も進めました。

ゼロから設計し直し、製品を生み出すプロジェクトを立ち上げるとともに、現地社員の育成も進めました。

リーマンショック後、社長に
2008年のリーマンショックは、自動車部品サプライヤーにとっても、私にとっても、大きな出来事でした。
市場の中心は先進国から新興国へと移行。高級車向けが主体だった取引は、小型車やハイブリット車、電気自動車向けへと変わり、当社の事業環境も大きく変化しました。2009年に社長に就任。仕事のやり方や考え方を変えていった時期でもありました。

新興国は「値段」「スピード」
グローバルビジネスを拡大していく中で、新興国の求める「値段」と「スピード」を解決しなくては会社としての成長はないと考えました。
生産コストを削減するため、既存の製品を改良しましたが目標には届きません。
ゼロから設計し直し、製品を生み出すプロジェクトを立ち上げるなど全社的な対応を進めました。

いくつか置いていたものの、開発拠点は日本国内が中心でした。そこで中国に開発拠点を設置。現地の道路事情を知り、お客様のさまざまなニーズに応え、良いものを早く作るなどレスポンスを重視した社内体制の整備を行いました。

製品が車に載って世界へ
1971年の入社から一貫して製品開発の現場を歩んできました。初めは「イスクブレキ^{※1}」の開発を担当。当時は量産機種がほとんど無く、試作品を作っては試行錯誤を繰り返して、それでも、新しいものを生み出すのは本当に楽しかったです。できあがった製品が車に搭載されて世の中に出ていく時のうれしさは、開発者として何物にも代えられません。

長いビジネス関係を
社長として海外企業との取引で気をつけたのは、値段交渉だけの製品の売り買いだけではない、「長いビジネス関係をつくりたい」ということ。当社の開発精神や品質、現場を直に見ていただくことで、信頼関係を築いていきました。
また、現地の従業員を育成することもビジネスを拡大する上

では欠かせない点となりました。世界中の自動車メーカーへのサプライヤーとして、「かけがえのないグローバルパートナー」を目指しています。

二人一人がプロに
会社はチームプレーの団体戦です。従業員一人一人がプロであり、それぞれの担当業務は全社員の中で誰よりも詳しくないといけません。プロの集団がいかにトータル力を発揮できるかどうかにかかっています。
2012年に藍綬褒章^{※2}を受章したとき、正直、私がいたいてよいものかと、こそばゆかったんです。たくさんの方々の支えや、従業員一同の一生懸命さがあったからこそ受章だと感じています。

世界の発展にむけて
技術の力は、社会のマイナス面を解決できる可能性があると思います。自動車を運転したい、所有したいという地球上のたくさんの方々の人達にその良さを知っていただきたい。自動車は世界の幸せや発展につながるものだと考えています。サプライヤーとして世界の発展を支えることも、私たちの役割であり責務だと感じています。

■アイシン精機株式会社

所在地：愛知県刈谷市朝日町
事業内容：自動車部品の開発・製造・販売

世界屈指の総合自動車部品メーカー・アイシングループ191社の中核企業。ドライブトレイン、ボディ、ブレーキ&シャシー、エンジン、情報関連といった自動車部品を製造、販売している。クルマづくりで培った技術を活かし、住生活・エネルギー関連製品(ミシン、ベッド、GHP)、福祉関連製品も手掛ける。2015年に創立50周年を迎えた。

※1 車輪や車軸に設けた円盤の摩擦機構によってブレーキをかける装置。
※2 会社経営、各種団体での活動等を通じて、産業の振興、社会福祉の増進等に優れた業績を挙げた方等が対象。

「高度な知の創成と的確な知の継承」。岡山大学の理念のもとに教育・研究を展開する個性あふれる教員たち。研究室を訪ねる。



◀モデル人形を用いたシミュレーションの様子

新たな教育を実践

岡山大学に着任した2013年、それまで医学科教育で使われていた高性能のモデル人形が学内にあることを知り、看護教育への導入を決めた。モデル人形は血圧や体温、呼吸音や心音などが操作でき、患者の急変をシミュレーションすることが可能。就職して臨床現場に出るまで急変患者の対応することがほとんどない学生にとって急変の対処方法を学べるだけでなく、落ち着いて対応できるかどうかも分かり、学生自身の傾向を知る新たな「武器」となった。

「知識があるのは当然で、現場では看護の実践力が求められてきている」と森本教授。新たな教育法でどのような教育的効果があるのかといった教育的評価も研究の1つであり、2016年度からは学生の看護風景を撮影し、学生同士が相互評価する「映像アノテーションシステム」を導入するとう。「どうしてそう対応するか。明確な根拠を持ってケアできる看護師になってほしい」と人材育成に力を注ぐ。



すべての人に看護の恩恵を
実践力を持った看護師を養成

チーム医療・地域保健医療活動のリーダーとなれる人材、医療の実践と研究を通して医療技術科学を確立できる人材の育成を目指す医学部保健学科。慢性の呼吸器疾患の患者の看護について研究し、アクティブ・ラーニングを用いた教育を実践する保健学研究科の森本教授を訪ねた。

自分の能力を高める

11年間、看護師として現場で働いてきた。看護師同士でケアのコツを教え合ったり、医師を招いて自主的に勉強会を開いたり…。自分の経験や分かっていたことを他の人と共有し、看護の質を高める努力を欠かさなかった。

看護師として働くことにやりがいを感じ、もとは教員志望ではなかったが、厚生省（現…厚生労働省）の看護教員養成課程受験を機に教員の道に進むことに。「著名な先生による教育や全国から集まった看護師の中で研修することでもっと自分を高めることができた」。迷いはなかった。

現在の研究との出会いは、教員として勤めた看護学校で担当した呼吸器病棟。日本で研究が進んでいなかった呼吸器疾患へのケアについて学びたいと大学院に進学し、修士、博士の学位を取得した。

最適な看護を目指して

慢性の呼吸器疾患では息切れなどから生活にさまざまな影響が出るほか、抑うつや不安になるなどの症状がある。森本教授は患者にインタビューを行い、ア

ンケートを作成。息切れの度合いや患者自身がどのように思っているかなどを数値化するツールを使い、人によって異なる症状ごとに最適な看護が実施できるように研究を進めている。

ある時、看護師から食事や入浴、着替え、呼吸法などのコツを教わった患者から「こんな方法があるとは知らなかった。息切れが楽になった」と声を掛けられた。森本教授は「看護師が持つ知識や生活のコツを伝えることで患者さん自身が息切れをコントロールできるようにするなど、少しでも不安を取り除くことができる」と話す。

しかし、すべての患者がその恩恵を受けられていないのが現状。保険点数などの制度上、看護師は外来患者と関わることが少なく、看護の説明ができるのは重症になってからが多いという。「看護師は外来の患者さんにも関わりたいと思っている」と強調する森本教授。さまざまなデータとニーズを集め、外来患者にも看護が実施できる制度改正を目指している。

大学院保健学研究科

教授

森本

美智子

MORIMOTO Michiko (53歳)

- ▶1962年 岡山県後月郡(現:井原市)生まれ
- ▶1984年 国立大阪南病院附属看護学校看護専門課程看護学科 卒業
国立岡山病院 勤務
- ▶1995年 厚生省看護研修研究センター看護教員養成課程修了
国立岡山病院附属看護学校 厚生教官
- ▶1999年 佛教大学社会学部社会福祉学科 卒業
- ▶2001年 岡山県立大学大学院保健福祉学研究科修士課程 修了
岡山大学医学部保健学科 助手
- ▶2006年 岡山県立大学大学院保健福祉学研究科博士後期課程 修了
鳥取大学医学部保健学科 助教授
- ▶2007年 鳥取大学医学部保健学科 准教授
- ▶2011年 鳥取大学医学部保健学科 教授
- ▶2013年 岡山大学大学院保健学研究科 教授

大内田裕美

マッチングプログラムコース1年

OUCHIDA HIROMI

研究、スポーツ、趣味、特技... 学内外のさまざまな場面で活躍する岡大生たち。そんなきらりと光る学生を、同じ学生の目線から紹介する。



ジェンダーに対する日米の意識の差 指摘しスピーチコンテスト優勝

駐大阪・神戸米国総領事館主催の英語スピーチコンテスト「第4回 A-O-K Speech Contest」が2015年12月、大阪府枚方市で開かれた。関西・中国エリアの15大学から選考された学生15人が出場。英語力やプレゼンテーション力を競い合い、岡山大学代表の大内田裕美さん（マッチングプログラムコース1年）が見事優勝を果たした。

大内田さんが英語のスピーチコンテストに初めて参加したのは小学生の時。中学・高校時代も校内などのスピーチコンテストに挑戦しているうちに、毎年参加が目標になった。大学では言語はもちろん、将来を見据えて理系学部で農学などの知識を深めたいという思いも強く、自分の学びたい講義を選んで受講できるマッチングプログラムコース（MPコース）に進んだ。異文化理解やプレゼンテーションなどの独自の講義をはじめ、農学部や工学部の講義にも参加。MPコースに所属しながらも、英語力養成や海外研修・留学などのプログラムが充実したグローバル人材育成特別コースも履修し、幅広い知識と国際性を身につけている。

女性への権限委譲において男女共同を推進するために日本とアメリカはどのように学び合えるか。これが今回のスピーチコンテストのテーマだった。大内田

さんは法律や歴史、女性の社会的地位に関する新聞記事や書籍を読むなどして勉強。自身の日常生活や、高校時代にアメリカへ留学した際に感じた日本人とアメリカ人の性に対する感覚の違いを根底に考えを深め、「アメリカはジェンダーに対して開放的だが、日本は男女の役割が強く、「女子力」という言葉にもそういう意識が潜在的にある。女性は赤、男性は青といった色づかいなど、目に見えることから少しずつ意識を変えていくべき」と流暢な英語で発表した。

自分オリジナルの考えを持ち 新たなステータジでチャレンジ

今回のスピーチコンテストを通じて、「今まで考えることのなかった法律や社会の制度を知り、問題を自分事としてとらえることの大切さを学ぶ機会になった」と大内田さん。今も男女の役割に対して問題意識を抱いており、自分のできることを模索しているという。

新たな目標もできた。一国の大使になりきってその国の立場から国際問題について考え、他国と議論しながら解決策を考える「模擬国連」への参加だ。岡山大学では2016年度からそのための授業が開講され、同年秋季には世界大会（NMUN）が神戸市内で開



インタビュー
岡山大学学生取材班
法学部法学科4年
時長 恭平



「第4回 A-O-K Speech Contest」にて▲

学生の活躍

- **スポーツ優秀賞**…全国大会に出場し、優秀な成績を取った個人又は団体
 - **ウエイトトレーニング部**
 - 第42回全日本学生パワーリフティング選手権大会…優勝
 - **水泳部**
 - 第62回全国国公立大学選手権水泳競技大会…男子3位 女子4位
 - **医歯薬卓球部**
 - 第67回西日本医科学学生総合体育大会…準優勝（男子団体）
 - 第47回全日本歯科学学生総合体育大会…総合3位
 - **他** 個人42人
- **スポーツ奨励賞**…全国大会に出場した個人又は団体
 - **アーチェリー部**
 - 第45回中国四国学生アーチェリー王座決定戦…1位（RC部門男子団体）
 - 第28回全日本高校・大学ダンスフェスティバル入選
 - **岡山大学ダンス部**
- **卓球部**
 - 第85回全日本大学総合卓球選手権大会…1位（男子の部）
- **ヨット部**
 - 第65回中国学生ヨット選手権大会…準優勝（国際470級団体）
- **医学部弓道部**
 - 第54回中国四国医学生弓道大会…優勝（男子団体戦）
- **他** 個人56人
- **スポーツ貢献賞**…校友会活動に多大な貢献をした個人又は団体
 - **ボクシング部**
 - 毎週開催するボクササイズ教室において、地域住民の体力、健康づくりの推進に貢献した。
 - **他** 個人2人
- **学生文化奨励賞**…
 - **児童文化部**／インリーダー研修会やサマーカーンプ、キッズルームなどのボランティア活動を実施するなど、地域社会に貢献した。
 - **他** 個人7人



OB・OGより寄贈された新艇「六花」を使って日々練習に励む漕艇部



全日本学生大会で優勝したウエイトトレーニング部



中国大会で24年ぶり優勝した男子卓球部



中国大会で3位入賞した女子卓球部

岡山大学学生スポーツ賞
学生の正課外スポーツ活動の普及振興を図るため、正課外スポーツ活動において優秀な成績を取った個人又は団体を学生からの申請に基づき表彰する制度。賞の種類は、「国際スポーツ賞」、「スポーツ優秀賞」、「スポーツ奨励賞」、「スポーツ貢献賞」の4種類がある。

岡山大学学生文化奨励賞
学生の正課外文化活動の普及振興を図るため、正課外文化活動において優秀な成績・活動業績が認められた個人又は団体を学生からの申請に基づき表彰する制度。

岡山大学のニュース&トピックスおよび最新情報は岡山大学のホームページからご覧いただけます。

<http://www.okayama-u.ac.jp>

11 November

27日 地元企業で活躍する本学卒業生や地元企業の役員など外部有識者6人を招いた「岡山大学改革懇談会」を開催



30日 大学院自然科学研究科が「小学生機械講座」を県内の小学校で開催

12 December

4日 「岡山大学知恵の見本市2015」もんげー岡山大学」を創立五十周年記念館で開催

5日 ミャンマー連邦共和国のバティン大学と大学間協定を締結



6日 テニス部に岡山県車いすテニス協会から感謝状が贈呈

10日 順天堂大学と国立大学法人岡山大学と学校法人順天堂との包括的連携・協力に関する協定書を締結



15日 研究推進産学官連携機構が「第52回岡大サイエンスカフェ」を創立五十周年記念館で開催

18日 定例記者発表を開催

平成28年度推薦入試Ⅰ、社会人入試、AO入試の合格者発表を実施
柔道金メダリストの井上康生氏が来学し柔道部を指導
「研究の質」を図るTop10%補正論文数が114%増加し、伸び率が全国の大学中トップ2位になった

1 January

8日 大学院医歯薬学総合研究科に寄付講座「三朝地域医療支援寄付講座」が設置され、三朝温泉病院で協定書調印式、開設式を挙げる



12日 大学院自然科学研究科の学生2チームが、ビジネスアイデアを競う「第14回キャンパスベンチャーグランプリ中国」で、テックノロジー部門優秀賞、奨励賞を受賞

15日 国立研究開発法人科学技術振興機構と共催で「2015年度岡山大学新技術説明会」を、東京都内で開催

20日 ロシアの国立アカデミー人文大学のデニス・フォミン学長が森田潔学長を表敬訪問



22日 「岡山大学キャンパスアジア成果報告国際シンポジウム」を、Junko Fukutake Hallで開催。本学と中国・吉林大學、韓国・成均館大学の代表者が、5年間の交流成果を報告

27～29日 世界最大のナノテクノロジーに関する展示会「nanotech2016」第15回国際ナノテクノロジー総合展・技術会議」に出展

29～30日 農学部と教育開発センターが「Academic Teaching Excellence」をテーマにした英語での教授法を学ぶ研修会を一般教員向けに開催

2 February

4日 資源植物科学研究所が研究所創立一〇〇周年記念事業の一環として、若き日の「大原孫三郎のフロンティア像、岡山の果樹栽培の祖「小山桑山」(益太)の石碑の公開式典を開催



2

6日 鳥取県と三朝町との三者間で連携協力に関する協定を締結。地球物質科学研究センターが行う教育・研究・社会貢献活動や三朝医療センターが担ってきた医療機能について新たな連携関係を構築。科学への関心の向上などを通じた人材育成や地域の活性化、地域の健康な暮らし等に資することを目的としている。



8日 平成28年度推薦入試Ⅱ、AO入試の合格発表を実施

8～10日 高等教育開発推進機構が「英語授業力を高めよう!」(CEI)内容言語統合型授業「ワークショップ」と題した教員研修を、附属図書館とCafeで開催

14日 次世代人材育成センターが「科学先取りグローバルキャンパス岡山」の公開講座をJunko Fukutake Hallで開催

16～17日 研究推進産学官連携機構が医療展示会「中央西日本メディカル・イノベーション2016」をJunko Fukutake Hallで開催

19日 定例記者発表を開催

研究推進産学官連携機構が「第53回岡大サイエンスカフェ」を創立五十周年記念館で開催

3 March

1日 「岡山大学・フェエ大学院特別コース」成果発表会、修了報告会を学内で実施

7日 平成28年度前期日程試験等の合格者発表を実施



研究・臨床成果

大学院医歯薬学総合研究科の大原直也教授、長崎大学との共同研究グループは、結核に対するBQワクチン「7Rロットのゲノム解析」を実施。培養による新たな変異の混在が少なく、安定性が高いことを確認した。英国の科学雑誌「Scientific Reports」に掲載。(12月・臨時発表)

大学院環境生命科学研究所の森永邦久教授、岡山県農業研究所などの共同研究グループは、岡山県を代表する果物「白桃」の果肉に外見からは認識できない異常が表れる障害に着目。環境的な要因として収穫期前的高温や降雨が障害の発生と関わっていることを解明。対策として、赤外線を大幅にカットできるチタンを塗布した新しい果実袋を用い、同時に降雨による水分が大量にモモ樹に吸収されないよう制御できるマルチシートを根元に敷くことで、特に発生が多い赤肉種の軽減に大きな効果が得られることを明らかにした。(12月・定例発表)

大学院環境生命科学研究所の田村隆教授の研究グループは、系統樹解析から得られたアミノ酸配列情報に基づき、スーパーコンピュータを用いて信頼性の高い立体構造を再現する斬新な計算化学の手法を確立。本手法を用いて、硫酸還元菌の水素代謝酵素の一つである「NifH」ヒドログナーゼの立体構造を再現することで、微生物が、生息する環境の酸素曝露リスクに応じて、酵素の立体構造を大胆に変化させてきた経緯と精緻なメカニズムを解明した。英国の科学雑誌「Scientific Reports」に掲載。(1月・臨時発表)

大学院自然科学研究科の押合潤准教授、大阪大学の共同研究グループは、粉体が動かない程度の微弱な風を粉体に送り込み、その表面に置いた球体の運動を観察。球体が特異的な沈降現象を起こすことを世界で初めて発見した。アメリカ物理学会の国際科学雑誌「Physical Review Letters」に掲載。(2月・臨時発表)

大学院自然科学研究科の見浪護教授の研究グループは、広和株式会社との協力を得て、本学が開発したロボット制御知能「3D-MoS (3 Dimension Move on Sensing)」を搭載した「自律制御型水中ロボット」3D-MoS/AUV (ももたろう岡大1号)を開発。海中自動充電を目的とした和歌山県の実海域での実証実験に成功し、海底での自律充電のための基礎技術を実証した。(2月・臨時発表)

大学院医歯薬学総合研究科の三好伸一教授らの研究グループは、主要な赤痢菌6種類の加熱死菌を混合した標品を実験動物に定期的に経口投与し、不活化ワクチンとして十分な免疫誘導効果と感染防御効果があることを見出した。また、ヒト培養細胞を用いた試験を行い、本標品が経口赤痢ワクチンの候補として有力であることを証明した。(2月・定例発表)

大学院自然科学研究科の高橋卓教授、本瀬宏康准教授、高村浩由准教授の共同研究グループは、植物の維管束木部分化を促進する生理活性物質「サイレミン」の開発に成功した。英国の科学雑誌「Scientific Reports」に掲載。(2月・定例発表)

異分野融合先端研究コアの仁科勇太准教授らの研究グループは、酸化グラフェンの酸素含有量によって異なる導電性、セシウム吸着能、キャパシタンス、酸化力などの物理、化学的性質を明らかにした。英国の科学雑誌「Scientific Reports」に掲載。(2月・臨時発表)

岡山大学 Alumni

アラムナイ

Alumni(全学同窓会)とは

岡山大学 Alumni (全学同窓会) は、従来の同窓生を中心とした同窓会とは異なり、岡山大学の知的な営みに関わったすべての方々、すなわち、同窓生のみならず、在学生や教職員、教職員OB、留学生、研究生等、岡山大学に関わったすべての方を会員として、“オール岡大”で岡山大学の発展を支援するとともに、会員の皆様の発展を目指すネットワーク組織です。岡山大学 Alumni は、こうしたネットワークを活かして、これからの社会の担い手である優秀な人材を育成し、岡山大学が知の養い手として発展するとともに、世界的な学術研究の中で確かな存在感を与え、そして、岡山大学に関わったすべての人が岡山大学のアイデンティティに誇りを持つことができるよう邁進していく組織です。

支援事業・・・

▶学生支援

学生の就職活動を支援するOB・OG情報について、Alumniのネットワークを活かしてデータベースとして構築し、岡山大学の就職支援活動の一層のサポートを目指して取り組んでいます。また、グローバル人材育成支援として、学生の海外派遣や海外の国際会議の参加、自己啓発活動としての海外研修等の諸活動に対し奨励金などの支援を行います。

▶各種行事支援

ホームカミングデイ等の会員相互の交流や、異業種交流を創出する行事の開催を支援します。

▶支部活動支援

全国各地の会員が学部の垣根を超えた交流と親睦を図ることを目指し、支部設立に取り組んでいます。設立された支部に対しては、活性化に向けた経費的な支援も行っています。

▶ボランティア活動支援

会員が積極的にボランティア活動に参加することができるよう、経費的な支援を行っています。

管理・運営事業・・・

▶会員専用ネットワークシステム運営

Alumni および大学の情報やイベント案内等をリアルタイムにお届けし、会員同士の交流を促進する「岡大アラムナイネット」を運営しています。

▶会報・ニュースレター発行

Alumni および大学の情報、同窓生や学生の活躍等をお届けします。

▶ホームページ運営

ホームページの充実を図り、積極的に情報を発信しています。

▶会員情報整備、事務局運営 他

会費納入 のお願い

岡山大学 Alumni は、会員の皆様からの会費収入を財源に事業を実施します。Alumniの活動をご理解いただき、ぜひ納入くださいますようお願いいたします。

会費：10,000円(終身会費)

会費の納入方法については、Alumniのホームページ (<http://www.cc.okayama-u.ac.jp/~dousou/alumni/index.html>) をご覧いただくか、Alumni事務局までお問い合わせください。

問い合わせ

岡山大学 Alumni (全学同窓会) 事務局

〒700-8530 岡山市北区津島中一丁目1番1号
(岡山大学津島キャンパス 本部棟4階)

TEL: 086-251-7019 FAX: 086-251-7294

E-mail: ou-alumni@adm.okayama-u.ac.jp



Postscript by the Editor

岡山大学の広報体制が新しくなってきたから、はや1年が経とうとしています。

今年度発刊した、いちよう並木77号では、ダイバーシティの推進、教育改革、大学のグローバル化など、大学の多様な取り組みを特集してきました。

今回80号では、第3期中期目標・中期計画における戦略について森田学長にインタビューを実施。教育改革の大きな柱となる「60分授業・4学期制」の導入、「グローバル・ディスカバリー・プログラム」の設置のほか、研究、グローバル化、社会連携などあらゆる面での戦略をお聞きすることができました。

岡山大学には、充実した教育、世界最先端の研究、地域を支える医療など、さまざまな強みがあります。広報・情報戦略室は、魅力的な誌面作りを展開した広報誌、ホームページ、ニュースリリースなどを通じて、今後も本学の強みを広く発信していきます。どうぞよろしくお願いたします。

広報・情報戦略室 編集担当